

IV 開発教育指導者研修(実践編) 第3回

■ 開催概要

- ◆ 日 時 : 2012年8月25日(土) 13:00~17:12、26日(日) 10:00~17:22
- ◆ 場 所 : なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数 : [1日目] 受講者39名、JICA7名、NIED4名、オブザーバー3名、合計53名
: [2日目] 受講者35名、JICA5名、NIED4名、オブザーバー2名、合計46名
- ◆ ファシリテーター : (特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子

■ 今回のねらい

- ① 参加型手法と、参加型手法を活用したアクティビティについての理解を深める。
- ② アクティビティを組み合わせ、流れのあるプログラムにする方法を学び、習熟する。
- ③ ファシリテーション実践を通してよりよい参加型とファシリテーターのポイントを確認し持ち帰る。

■ 開催の様子



アイスブレイキング～4月～8月のわたしを絵にしよう！



ガーナチームによるクイズで海外研修報告



テーマグループに分かれてプログラムづくり



作成したプログラムのファシリテーション実践！

■ プログラムの内容

● セッション1 「行動変容と参加型」 8/25 13:00-16:13

1. 主催者あいさつ／第3回のねらいの確認 13:00-[10]
 - ◇ 司会あいさつ、研修全体および第3回のねらいの説明を行う。
2. アイスブレイキング～4月～8月のわたしを絵にしよう！ 13:10-[36]
 - ◇ 各自、4月～8月の自分をふりかえり「絵」にして用紙に描く。用紙の裏に、①絵を描いてみてわかること・いえること、②ここから続く未来への期待、③初対面の人に自己紹介する時の「〇〇な誰々です。」を書く。全体で、ファシリテーターが指定する人数のグループを作り紹介し合う（2人、3人）。その後5人ずつのグループになる。
3. 第1回・第2回ふりかえり 13:46-[20]
 - ◇ 各自、第1回・第2回の記録を読み、印象に残った3カ所に下線を引く。1カ所をグループで紹介し合う。
4. 参加型や国際理解教育をふりかえる 14:06-[17]
 - ◇ グループで「参加型は〇〇だ」「開発教育・国際理解教育は〇〇だ」の〇〇に当てはまるものをブレインストーミングする。回し読みにより全体で共有する。その際、感心したアイデアに☆印を付ける。→**成果1**参照
5. グループ替えと一言自己紹介 14:23-[9] →「自分を季節に例えると」
6. 気づきを行動に！わかるだけでなく、できる！へ 14:32-[26]
 - ◇ 各自、頭ではわかっているけど、まだ出来ていないことを用紙の左側1/4に思いつくだけ書く。やる必要性があるがやれていないことを1つ選び、用紙3/4の中央に書き、できていない理由や背景を書き連ねる。何があればできるようになるか？用紙の空いているところに書き出す。その後、グループで人の行動変容を支えるものを発表し、ポップコーン方式により全体で共有する。→**成果2**参照
7. 行動変容を支える参加型3つのアプローチミニレクチャー 14:58-[8]
 - ◇ ファシリテーターが資料をもとに、「わかる」から「できる」をつなぐ「知識・情報」「気づき」「意識化」「スキルトレーニング」を説明する。…内容「①現状と課題を知ってもらう→②自分ごとにするために内発的に気づく→③何をしたらよいかわかり日常の中で覚えている→④具体的に関わる方法を身につけ繰り返しやってみる。」

- 休憩 - 12min
8. 「気づき」のアクティビティ～「お話の続きを作ろう！」→経験学習の4段階 15:22-[32]
 - ◇ 各自、4種類の話の出だしが書かれたシートを1種類選び、話の続きを考え、シートに加える。話に関する写真を見て自分が考えた話を修正する。写真の解説を読む。感想をグループで共有する。わかること、言えることをグループで考える。ステレオタイプにならずお互いの誤解なく理解し合うために大切なことは何か、各自1つ考え、グループで共有する。ファシリテーターが経験学習の4段階（「体験する」→「ふりかえる」→「一般化する」→「応用する」）について説明する。
9. 「築き」のアクティビティ～力の分析 15:54-[5]
 - ◇ ファシリテーターが力の分析について説明する。
10. 「わたし」「あなた」「みんな」のスキル・トレーニング～「誰にも言うんじゃないよ」 15:59-[14]
 - ◇ 各自、『話のタネ「誰にも言うんじゃないよ」（痴漢に遭った子に対する家族の対応）』を読む。登場人物を割り振って、グループで演じる。ロールプレイの中で違和感があったところを全体で発表する。ファシリテーターがこの問題の背景には何があると思うか問いかける。警察の痴漢防止のポスターの移り変わりの資料を見る。どんな事を言って欲しかったか、どう受け止めてほしかったか、各自考え、グループで共有する。

- 休憩 - 9min

● セッション2 「参加型手法とアクティビティと流れのあるプログラム」 8/25 16:22-17:12

1. アクティビティと流れのあるプログラムの理解 16:22-[22]

- ◇ 資料をもとに、アクティビティ、流れのあるプログラムについてファシリテーターが説明する。各自、第1回から第3回まで行ったアクティビティと、「ねらい」+「内容」+「手法」に表した解説を、12の参加型手法と照らし合わせながら読む。グループでわからない手法、イメージしにくい手法について補い合い、それでもわからない週報について全体でファシリテーターが答える。

2. 手法の活用を練習しよう！ 16:44-[21]

- ◇ グループのメンバーに参加型手法の種類を割り振り、各自、活用方法を考える。グループで共有する。ファシリテーターが資料をもとに補足説明する。

3. ふりかえり・事務連絡 17:05-[7]

- ◇ 1日目を通して、わたしがわかったこと、学んだことをグループで共有する。
- ◇ 事務局から連絡を行う。

● セッション3 「JICA TIME & 教師海外研修報告」 8/26 10:00-11:36

1. JICA TIME 10:00-[32]

- ◇ JICAの事業を紹介するDVDを視聴する。JICAの事業、ガーナとラオスの概要および国別援助重点分野、教師海外研修の主な訪問先などについて説明する。

2. ガーナ教師海外研修チーム報告 10:32-[22]

- ◇ 同行ファシリテーターがガーナチームを紹介する。ガーナチームが、現地で撮影した写真など投影し、現地で体験し驚いたことをクイズにしたり、各自が感じたことを報告する。

3. ラオス教師海外研修チーム報告 10:54-[21]

- ◇ 同行ファシリテーターがチームを紹介する。ラオスチームが、現地で子どもたちと踊った踊りを再現し、現地で撮影した写真など投影し、現地で体験し驚いたことをクイズにしたり、各自が感じたことを報告する。

4. マンツーツーマン・セッション 11:15-[21]

- ◇ 教師海外研修受講者1名と開発教育指導者研修（実践編）のみの受講者2名で席に座る。海外研修受講者が5分間話題提供し、その後10分間は指導者研修のみの受講者が海外研修受講者にインタビューする。

- 休憩 - 14min

● セッション4 「プログラムを作ろう！」 8/26 11:50-12:37, 13:40-14:40

1. プログラムづくりグループ編成と一言自己紹介 11:50-[10]…

- ◇ 5~6人の7グループに編成する。一言自己紹介「そもそもなぜ研修に参加しようと思ったのか？」を行う。

2. テーマ設定ごとねらいの設定 12:00-[37]

- ◇ ファシリテーターが設定した7つのテーマを割り振る。グループで、各テーマについてのイメージを派生的なブレインストーミングで書き出す。今回作るプログラムを通して、学習者が何に気づくとよいのか、どう行動するようになるかとよいのかを対比表で書き出す。対比表で出した内容から学習者の側に立ち、どの順番で提供したらよいか考えてみる。→[成果3](#)参照

- 休憩 - 63min

3. 90分のプログラムを作ろう！ 13:40-[60]

- ◇ グループで、示されたプログラムの書き方の様式・モデル例をもとに、設定したねらいを達成する90分のプログラムを作る。→[成果3](#)参照

● セッション5 「実践！ファシリテーション！」 8/26 14:40-17:22

1. プログラム1 「コミュニケーション・他者理解」 14:40-[15]

- ◇ プログラムの説明後、体験ファシリテーション「外交官になろう！ゲーム」を行う。決められた6色のマジックを1本ずつ持つ。グループでA国、B国に分かれ、それぞれマジックをもらう際のルールを覚える。A国のグループがB国側へ行って、自分が持っているペンの色と同じ人の所へ行ってマジックをもらってくる。話してはいけない。国によってルールが違う。最後に握手する。

2. プログラム2 「環境・生き物」 14:55-[15]

- ◇ プログラムの説明後、体験ファシリテーション「生き物がいなくなったらこんな事が困る！」を行う。グループで、ミミズ、セミ、ホタル、ハチ、クマがいなくなったらどんな事が困るか、それぞれについて同時に派生的に考え模造紙に書き出す。ギャラリー方式により全体で共有する。

3. プログラム3 「自己理解・自尊感情・自己肯定感」 15:10-[14]

- ◇ プログラムの説明後、体験ファシリテーション「私の良いところ、直したいところ→リフレーミング」を行う。各自、私の良いところ、直したいところを対比表で書き出す。直したいところを1つ選び、グループの模造紙に書き、別の人が→を書いて長所に言い換えて書く。ギャラリー方式により全体で共有する。

4. プログラム4 「豊かさ・幸せ・未来」 15:24-[14]

- ◇ プログラムの説明後、体験ファシリテーション「幸せランキング」を行う。各自、食べ物、お金、家族、友達、勉強、自然、健康、遊び、部活をダイヤモンドランキングして、1位、9位を決める。グループで話し合って1位を決める。1位のを模造紙の中央に書き、それがないとどんな気持ちになるか、どうなるのか、派生的に書き出す。回し読みにより全体で共有する。

- 休憩 - 7min

5. プログラム5 「環境・水」 15:45-[14]

- ◇ プログラムの説明後、体験ファシリテーション「もし今日から水が使えなくなったら」を行う。グループで、水が使えなくなったら困ることをリストアップする。一番多いチームが全体で発表する。

6. プログラム6 「異文化理解・多文化共生」 15:59-[14]

- ◇ プログラムの説明後、体験ファシリテーション「世界のごはん、どんなごはん？」を行う。各自、知っている料理を付せん紙に3分間でできるだけ多く書く。料理を共通点でまとめ、模造紙に整理する。ギャラリー方式により全体で共有する。

7. プログラム7 「平和・紛争対立解決・国際協力」 16:13-[15]

- ◇ プログラムの説明後、体験ファシリテーション「幸せな時間を集めよう！」を行う。各自、幸せな時はどんな時か、付せん紙に書く。カード式整理法で付せん紙を分類整理する。回覧板方式により全体で共有する。その際、よいなと思ったアイデアに☆印を付ける。

8. 2つのカードの共有 16:28-[16]

- ◇ プログラム発表後に、体験した受講者が書いた「そこ良かった！具体的に誉めちゃうカード」「ここをこうすると良いよ！提案カード」の自分のグループ分を集めて内容を確認する。ファシリテーションをしてみてどうだったか、雑談形式で話し合う。1グループ2個ずつ全体で発表する。

9. グループ替えと一言自己紹介 16:44-[5]

10. 人がよりよく学び・変わることに寄り添うファシリテーターのポイント10カ条 16:49-[19]

- ◇ グループで、ファシリテーション実践やこれまでの研修をふりかえり、人がよりよく学びよりよく変わることに寄り添うファシリテーターのポイントを出し合う。→[成果4](#)参照

11. 全体ふりかえり・事務連絡 17:08-[14]

- ◇ 第3回をふりかえって、感じたこと、わかったことをグループで発表し合う。
- ◇ 第4回・フォーラムに向けた実践報告シートの提出の説明、JICA 推進員からイベント案内などを行う。

■ 主な成果物

● 成果1：「参加型」「開発教育・国際理解教育」とは〇〇だ！

<「参加型」とは！>

- ・アタマとカラダとココロと五感を使う
- ・自発的・主体的・自由に学ぶことができる
- ・一方通行ではないコミュニケーションの場
- ・自分の考えがはっきりする
- ・ガーナでもやっている
- ・テーマは何でもOK
- ・発見や気づきがたくさんあり刺激的
- ・体力が必要で終わるとよい疲労
- ・楽しく、わかりやすく、印象に残る
- ・人の意見が自分への刺激や新たな気づきとなる
- ・自分の中にテーマが生まれる
- ・ファシリテーターが必要
- ・行動したくなり、明るい未来づくりにつながる
- ・色々なパターンがある
- ・合う人と合わない人がいる！？
- ・みんなの考えを引き出す
- ・人や課題と関わる体験から学ぶ
- ・さぼれない、退屈しない、眠くならない
- ・人の頭、みんなの頭で考える
- ・考えが広がり、考えを深めあえる
- ・冷や汗をかくこともある
- ・初めは勇気がいるが、みんなと仲良くなれる
- ・行動しようという気持ちになれる
- ・みんなの笑顔がある、感動がある
- ・あっという間に時間が過ぎる
- ・短時間で考え表現できる
- ・自分も他者も大切にする
- ・爆発
- ・自分の心を少し掘り下げてみんなと一つになれる
- ・終わりはない 答えは一つじゃない 進化する

<「開発教育◇国際理解教育」とは〇〇だ！>

- ・今を変え、未来を切り開く
- ・自分と世界とのつながりが見つかる
- ・考えを深めることができ、視野が広がる
- ・「わたし」から始まる、自分理解教育
- ・共に生きる基盤となる教育
- ・明るく、夢があり、優しい気持ちになる
- ・自分、周囲、世界を好きになる
- ・環境、人権、他国の現状、自国の現状を知り、他人事が自分事となる
- ・相手を知り、相手を認め、自分を知り、自分を見つめ直す
- ・これからの学校教育に必須であり誰にとっても必要な教育
- ・視野が広がる、関心がわき起こる、世界に行きたくなる
- ・直面している課題を深く掘り下げて考えてみたくなる
- ・異なるものと肯定的に出会い、多様性を受け容れることを学ぶ
- ・自分の思い込みに気づき、相互理解や心のバリアフリーをめざす
- ・身近なものから、遠くのものまで広範囲に考える
- ・互いのよさを見つけられる
- ・世界を身近に感じるようになる
- ・体験して身体で味わい、実践力を養う
- ・楽しく奥深く、感嘆詞がいっぱい
- ・答えは一つじゃない ゴールはない
- ・ESDそのもの

● 成果2：人の行動変容を支えるもの

- ・必然性
- ・喜んでくれる誰か
- ・やる気、根性、勇気
- ・怒ってくれる誰か
- ・時間
- ・お金
- ・管理してくれるパートナー
- ・小さな事から始める
- ・心の余裕
- ・立地条件
- ・ご褒美
- ・仲間
- ・信じてくれる誰か
- ・期限
- ・目標、達成感
- ・簡単にできるやり方
- ・新しい出会い

● 成果4 :

★ 人がよりよく学び・よりよく替わることに寄り添うファシリテーターのポイント ★

- ・ねらいを明確に持っている
- ・肯定的に受け止める・わかりやすい指示
- ・自分を出さない
- ・詰まったときによりよいヒントを与えてくれる
- ・笑顔
- ・誉める
- ・絶妙な間
- ・しゃしゃらない（出しゃばらない）
- ・時間管理が出来ている
- ・待ってくれる
- ・笑いを誘う雰囲気
- ・オープンな雰囲気を上手に作れる
- ・まわりを巻き込むことができる
- ・聴く力
- ・冷静さ
- ・縁の下の力持ち
- ・よいストーリーづくりができる
- ・おしゃれ
- ・絵心もしくはユーモアがある
- ・必要な時に必要な情報を引き出せる
- ・板書が早い
- ・ワイドビューとフォーカスレンズを持っている
- ・参加者を信じる&自分を信じる&参加型の力を信じる
- ・ねらいがぶれない
- ・無理のない段階的な進行
- ・早くまとめる
- ・参加者の表情や雰囲気をキャッチする
- ・体力
- ・耳になじみやすい話し方
- ・周到的な準備
- ・視野が広い
- ・参加者を信じられる
- ・目力
- ・臨機応変
- ・資料の出所が明確
- ・ポジティブさ
- ・伝えたい想いがある
- ・アクティビティの選択がうまい
- ・経験がある
- ・脱線を修復する力がある
- ・深みのある人間性がある
- ・強制的ではない
- ・向上心がある
- ・誠実
- ・変化は内側から（主役は参加者）